

「市民会議」に期待するもの

前八王子市市民参加推進審議会会長
渡戸一郎（明星大学）

1. はじめに

- ・ 少子高齢 = 人口減少社会、高度情報化とグローバル経済の深化、福祉国家の後退、企業社会の変容、家族の縮小、地域コミュニティの衰退などにより、格差社会化、無縁社会化が進行
- ・ 社会保障費の増大のなか、政府部門の財政困難が深刻化
- ・ 「地方分権改革の10年」よりも「地方リストラの10年」（国の支えをはずすことで地方自治体の自立を促す） 地方行財政改革の厳しさの増大
- ・ 政府、市場部門に対する「市民部門」（コミュニティ、NPO、ボランティア、社会的企業）の重要性の高まりと協働の可能性（「新しい公共」？）
- ・ とりわけ社会的な安全網（つながりのための場や仕組み）の再構築と「脱成長」の地域再生の課題化
- ・ 高齢化する「グローバルな都市地域」としての八王子市の将来像をどう見通すか

2. 八王子市市民参加推進審議会で議論されたこと（別添資料を参照）

- ・ 地域住民の複雑化・多様化
- ・ 市民参加の負担感を軽減するための方策の必要性
- ・ アクティブシティズン以外の住民の声をどのように聴きとるか
アンケート調査、フォーカス・グループのヒアリング、パブリックコメントなど
- ・ 活字メディアと電子メディアの活用
- ・ 市職員との議論の必要性（市民との視点の共有）

3. 「市民会議」への期待

- ・ 参加する市民の自主運営が基本
- ・ 情報の共有と客観的なデータに基づく議論
- ・ 会議のもち方、議論のルールを決める
- ・ ワークショップやKJ法などの技法の活用
- ・ 合意形成に向けた、聞く力、説く力、議論する力、まとめる力
- ・ 草の根からのエネルギーに支えられた夢、希望のあるビジョンの追求
「希望とは、具体的な何かを行動によって実現しようとする願望である」
(Hope is a wish for something to come true by action.)
玄田有史『希望のつくり方』岩波新書、2010年10月刊